

長崎放送

活動名	平和文学朗読キャラバン
実施期間	◆親子朗読会 令和6年 6月8日(土)◆配信 6月～8月
実施回数	会場 1回・オンライン 10回

【事業実施の成果・課題】

平和文学朗読キャラバン 20 年目の今年は、対面での親子朗読会を開催すると同時に、長崎県内の 10 団体（小学校・中学校・学童クラブ）にアナウンサーが朗読した映像を事前に収録し、学校向けに閲覧ページを作成、限定視聴を行いました。今年は、3146 人の児童生徒が平和文学の朗読を視聴。参加人数は昨年までと合わせると、213 団体・3 万 5072 人となりました。

親子朗読会は、事前に募集を行い希望する親子 20 人に参加して頂きました。また、新型コロナをきっかけに 5 年前からオンライン配信での朗読視聴となっていますが、参加頂いた先生方からは「毎年、8 月 9 日当日やその前に平和学習の機会を設けているが、被爆者の方々の数も減り、来校してもらうことが減った。こういう機会は、子どもたちに平和教育を行うのに、大変ありがたい。」「朗読を通して、過去・現在の状況を子どもたちに伝えることができ、一緒に未来について考える機会となった。」など多数嬉しいお声を今年も頂きました。応募があった全ての団体に今年も限定視聴を行い、子どもたちへ平和の輪を繋げる活動となりました。また、今回は親子朗読会の模様を NBC ラジオで 1 時間の特別番組として放送することができました。ラジオを通してより多くの方々に伝えることが出来たのではないかと思います。

<課題>

コロナ禍前まで行っていた、アナウンサーが学校を訪問するというスタイルを復活させて欲しいという要望もあります。今年は、親子朗読会を開催し、5 年ぶりに生で子どもたちに平和の話を伝えることが出来ました。企画の応募状況や、子どもたちの反応、ラジオ・テレビ番組に届くメッセージなどから、当キャラバンの「地域への浸透」や「期待と責務」も実感しています。来年は被爆から 80 年の節目の年です。私たちも思い新たに、来年に向けて社内で議論を重ねていきます。

【事業担当者およびアナウンサー（講師・読み手）の感想】

被爆から 79 年が経ち、長崎・広島では、語り部（被爆者）の高齢化が進んでいます。今年はこの活動をスタートさせて 20 年目の節目の年という事もあり、全アナウンサーが意見を出し合い、企画・運営を行いました。

「被爆地の放送局のアナウンサーの私たちにできることは何なのか。」

今後も、状況を鑑みながら私たちなりの分析が必要だと実感しています。いかなる状況でも、子どもたちに「平和の尊さ」を伝える活動は絶やしたくない。この思いを改めて感じているところです。

【教諭・保育士・子どもたち・視聴者などの感想】

10 団体・3146 人の児童生徒に参加頂き、感想文を送って頂きました。

その中から一部を原文のまま抜粋致します。

＜小学 6 年生の感想＞

私は、戦争のお話を聞いて、戦争は言葉にできないほど怖くて、おそろしいものだと思います。戦争にあった人は、ものすごく多くて、つらい思いをした人がたくさんいるからすごく悲しいです。これからは、絶対に戦争は、してほしくないです。

＜中学 3 年生の感想＞

先日、道徳の時間に「平和文学朗読キャラバン」を見ました。原爆を落とした側の話も、落とされた側の話も、どちらも強く印象に残っています。当時 5 才の辻本さんの手記や、ウクライナの少女の日記を聴いていると、とても心が苦しくなりました。もし、自分だったらと考えると、とても怖く心も暗くなります。しかし、これが世界で起きている現状なので、私たちが目をそらしてはいけなと改めて実感しました。被爆者が減少し、原爆に対して関わる機会が少なくなっています。このような中でこの朗読会はとても貴重であり、みなさんの真剣な朗読はとても心に響きました。

これから、このことを私たちが次の世代に伝えていきます。